

令和4年度市長奨励賞及び善行賞の授与について

秘書広報課

令和4年度受賞者（所属）及び受賞理由

1 市長奨励賞

【職務上】

① 未来創造部

デジタル技術の活用により、地域の課題を解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上等の取組を表彰する「夏のDIGI田甲子園」（内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議主催）が実施され、「めぶくID」を活用した、視覚障がい者の歩行支援システム「めぶくEYE」が、群馬県代表として「アイデア部門」で最高賞の内閣総理大臣賞を受賞した。

さらに、マイナンバーカードを活用したタクシーの運賃補助による移動支援「マイタク」事業が、「実装部門」で準優勝を獲得した。

② 未来創造部 情報政策課

自治体クラウド導入と同時に、伊勢崎市と帳票の標準化を行い、住民サービス向上、職員の業務改善及びコスト削減を実現した印刷BPO事業を実施。ユニバーサルコミュニケーションデザイン化や、オンデマンドプリント化、機械処理を推進した業務品質の確保と迅速化を行った。この取組が評価され、行革甲子園2022にて優秀賞を受賞した。

③ 未来創造部 情報政策課

令和2年国勢調査の実施にあたり、オンライン回答の推進に尽力し、優れた成果をあげたとして、令和3年12月1日に総務大臣表彰を受賞した。

本市の最終的なオンライン回答率は、45.4%となり、県内12市でトップ、全国の県庁所在市・政令市・特別区の中から5市に選ばれたことにより、総務大臣表彰につながった。

④ 健康部 衛生検査課 課長 松本和裕

平成21年4月の市保健所開設から現在まで、食品衛生監視員として食品衛生事業に従事した功績が認められ、今年度、「全国食品衛生監視員協議会会長感謝状」、「公益社団法人日本食品衛生協会会長感謝状」の二賞を受賞した。

⑤ 環境部 環境森林課

民間企業と連携し、市の事務・事業から排出される温室効果ガスの排出削減に向け、六供清掃工場で発電した余剰電力を市有施設で活用する自己託送実証事業を県内で初めて開始し、対象施設から排出されるCO₂の約65%が削減されるとともに、対象施設の電気料金について約380万円の低減実績となった。

現在、実証事業2年目として、更に水質浄化センターなど3施設を追加し9施設で活用しており、今後、対象施設から排出されるCO₂の約89%が削減されるとともに、対象施設の電気料金について約4千万円の低減となる見込みである。

こうした取組は、環境面での効果にとどまらず、市の歳出削減にも大きく貢献している。

⑥ 都市計画部 市街地整備課

産業経済部 にぎわい商業課

「マチスタント～前橋市アーバンデザインにより広がるまちのリノベーション～」の取組が高く評価され、国土交通省が主催する第1回まちづくりアワード（実績部門）において特別賞を受賞した。

アーバンデザインの実現に向けたリノベーションまちづくりの取組として、遊休不動産の調査だけでなく市職員による積極的な不動産や事業オーナーへのヒアリング及びマッチング等を実施した。こうした行政主導の取組が、若手クリエイターや地元大学の学生、民間事業者、金融機関をはじめとした地域の様々な団体や個人と協働した取組につながり、まちなかにおける新たな遊休不動産の利活用が次々に発現している。

⑦ 都市計画部 市街地整備課

日赤跡地生涯活躍のまち（CCRC）は、官民連携による医療や福祉、住宅や商業などの都市機能を集約しただけでなく、県内市町村では初の取組となるパークPFI制度を導入し、民間施設の一部は地域に開かれたコミュニティスペースとして広く活用されている。

また、行政が調整役となり、事業コンセプトに賛同した16の企業、NPO、大学等により、ソフト事業を推進するための民間団体「コロンサークルまえばし」を組成し、コミュニティ醸成や健康維持プログラム、伴走型相談拠点の活動や周辺の空き家を活用した移住促進など、延べ50回にわたる独自の取組を実施している。

こうした取組が高く評価され、「第19回土地活用モデル大賞」において都市みらい推進機構理事長賞を受賞した。

⑧ 建設部 公園管理事務所

大量に発生する剪定・伐採材について、以前は処理業者へ処理委託を行っていたが、薪ストーブ等に利用したいという市民ニーズに応えるため剪定・伐採材の配布事業を令和3年度より始めた。これにより、現在に至るまで、500件以上の利用があり、約50tのゴミ処理量削減を図り、SDGsの取組に貢献することができた。処理費用についても約100万円

の削減ができた。これから厳冬期を迎えるにあたり更に需要が増える見込みである。

⑨ 消防局 北消防署白川分署 消防副士長 松崎 勝 優

全国消防救助技術大会は、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じ、救助技術の高度化に必要な基本的要素を練磨し、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、他の模範となる消防救助隊員を育成し、国民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的とし毎年開催されている。

本職員は、毎日の過酷な訓練に弱音を吐くこと無く、努力を積み重ね、後輩職員に対しても技術指導を忘れず、訓練成果を遺憾なく発揮し、第50回全国消防救助技術大会における「水上の部、基本泳法」において入賞した。

【職務外】

① 財務部 収納課 副参事 金井 正 明

群馬県骨髄バンク連絡推進協議会は、骨髄ドナー登録者の増加、PR活動を目的に設立された会で、本職員は、10年以上にわたり、骨髄バンクのドナー登録者を増やすべく、「ドナー登録説明員」資格を取得し、各種イベント（県内）でのPR活動を行っている。

今年の4月からは、同協議会副会長に就任、会長を支えながら群馬県との調整業務を行っている。

② 市民部 市民課 主事 飯島 有 紀

第32回日本クラシック音楽コンクールオーボエ部門一般の部において、群馬県予選、埼玉県本線を突破し、全国大会にて第5位の優秀な成績を収めた。

また、日頃から各団体の定期演奏会や地域の文化祭等に出演する一方で、市民に音楽を楽しんで欲しいとの思いから、「それいけ！まえばし出前講座」において、楽器の知識と理解を深めてもらうための講演を行っている。

③ 建設部 道路建設課 主任 明沼 陵 司

教育委員会事務局 学校教育課 主事 糸井 みなみ

両職員は、第33回全日本都市区職員バドミントン大会にて、混合ダブルスフリーで優勝した。

全日本都市区職員バドミントン大会は、バドミントン競技を通して都市職員の交流親善を促進し、併せて余暇の活用と健康増進に資し、もって地方自治の進展に寄与することを目的として開催され、日本バドミントン協会公認公式大会であり、国体選手も多数出場している。

④ 建設部 東部建設事務所 所長 塚田 伸 也

20年間にわたるオープンスペースの研究成果が造園学の目指すべき社会実装

に結び付いた研究のあり方として高く評価され、2022年度 日本造園学会全国大会において、造園学で最も権威である日本造園学会賞を受賞した。

また、前橋工科大学及び前橋高等職業訓練校の講師も務めており、研究成果を授業で公表するなど教育の後進育成にも寄与している。

※平成28年に受賞しているが、その後の新たな功績として表彰

⑤ 市民部 市民課 専門員 富所 芳之

平成14年10月入団以来、20年以上にわたり、消防団活動に深い理解と協力を示し、地域住民の安全確保に尽力している。

災害現場への出動はもとより、消防団の各種年間行事に率先して参加し、特にポンプ操法訓練に力を注ぎ、勤務終了後の夜間や休日を厭わず操法訓練にいそしみ、後輩の育成に労を惜しむことなく、精励する姿勢は目を見張るものがある。平成30年には群馬県消防協会精勤章が（勤続15年）授与されている。

⑥ 教育委員会事務局 文化財保護課 副主幹 阿久澤 智和

平成14年4月入団以来、20年以上にわたり、消防団活動に深い理解と協力を示し、地域住民の安全確保に尽力している。

災害活動はもとより、火災予防運動中の防火訪問や歳末特別警戒などに積極的に参加し、特にポンプ操法をはじめとする各種訓練には力を入れている。平成28年4月には部長を歴任した。平成29年には群馬県消防協会精勤章（勤続15年）が授与されている。

2 善行賞

① 健康部 保健予防課 会計年度任用職員 中戸 彩乃

令和4年8月1日12時過ぎ、朝日町二丁目地内で90歳の男性が自宅門扉に寄りかかってぐったりしているところを発見。様子がおかしかったため、声をかけると意識はあるが反応が薄かった。同じく通りかかった当該人の知人女性が、隣家の男性を呼び、職員と男性と一緒に当該人を自宅内に運び込んだ。

様子を見ていたものの回復の兆しがなく、職員はこのまま自宅で様子を見るのは危険と判断し救急を要請。当該人の体温計測など行いつつ、4分ほどで救急隊が到着し当該人を引き渡した。

後日、当該人の妻から職員に対し、救急搬送後に輸液で回復し自宅に戻れたと、謝意の報告があった。

② 消防局 東消防署 小隊長代理 小林 晃

令和4年7月14日、午後10時過ぎ、買い物のため自家用車で高崎市内を走行していたところ、雨が降る中、傘をささずに歩いている高齢女性を発見。不審に思い高崎市の安心ほっとメールで行方不明者の情報を確認したところ、1名の高齢女性が行方不明との情報を得た。高齢女性に近づくと靴の特徴が情報と一致。携帯電話で高崎警察署に行方不明者の発見状況を尋ねると「まだ発見されていない」とのことであったため、高齢女性に声を掛け、行方不明者本人の確認がとれたためその場で保護。その後、到着した警察官に引き渡した。

本職員の迅速かつ的確な行動により、女性が無事家族のもとに戻れ、高崎警察署長から感謝状を拝受した。

国民の生命、身体及び財産を災害から守ることを使命としている消防職員が非番の日にとった行動は、広く市民に安全と安心を与えるとともに、消防に対する信頼向上に大きく貢献した。